

# 幼研だより

【発行所】

久留米市幼児教育研究所

久留米市荘島町11番地1

(総合幼児センター2階)

電話 (0942) 35-3812

創刊：昭和54年5月15日

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、地域・学校・保育所・認定こども園・幼稚園等の行事がコロナ禍前と同様に対面形式で行うことができるようになり、歓声や賑わいが戻ってきたのではないでしょう。

幼研の療育・訓練も感染対策は継続しながらも実施してきましたが、まさかの空調設備の不具合により幼研以外の施設をお借りして一部の事業を実施せざるを得ませんでした。利用者はもとより関係部署の皆様には、大変ご迷惑をかけました。あらためて、ご協力に対して感謝申し上げます。

幼研の発達支援以外の事業を紹介します

## 久留米市幼保小合同研修推進事業

- 目的 幼児保育教育の資質向上及び幼児の健全育成に資するため、幼稚園・保育所・小学校の連携強化に努め、保育教育の一貫性を目指した専門的、総合的な事業を推進する。

- 令和4年度からの研究テーマ

「幼保小の連携・接続を推進する接続カリキュラムの構築」(3ヶ年計画)

- 接続カリキュラムを構築するポイント

★子どもの姿が分かるカリキュラムであること

➡保育・教育者の「個の学び・育ちを見取る力」を高める。

★「個の学び・育ち」を可視化し、蓄積していくこと

➡子どもの活動を動画撮影する。

・子ども同士の会話のやり取りや子どものつぶやき、思考を事実のまま記録する。

・動画を見ながら「個の学び・育ち」や「幼保と小の学びの連続性」を協議したり検証したりする。

★園児と児童と一緒に活動する交流が不可欠であること

➡園児を招待するのではなく、一緒に楽しめる活動をする。

・一緒に活動を繰り返し、お互いの名前を覚える。入学時に名前を覚えられている安心感は計り知れず、安心感は周りの子ども達にも広がる。安心してスタートすると、その後の学習がスムーズになる。



鳴門教育大学

教授 木下 光二 先生に

指導・助言を頂いています。

「ビデオカンファレンス」と呼んでいます。

- 幼保小合同研修会参加者の声

### ビデオカンファレンス

- ・一人ひとりの学びを感じられた。
- ・園内研修でも取り組みたい。
- ・色々な方の意見を聞いて良かった、楽しかった。

### 連携・接続を含む、交流の方法、在り方

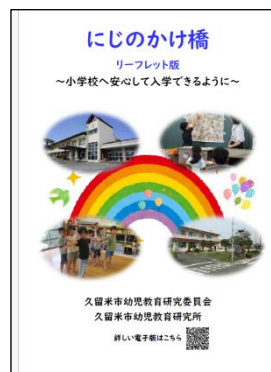
- ・幼保小の交流をもっと楽に考えていい。一緒に活動して双方が豊かになることが大切。
- ・交流を日常のものとして楽しく行うことが、安心して就学することに繋がる。
- ・特別なことをしなくても、一緒に授業に参加する等、普通のことでいいと分かってハードルが下がった。

～お知らせ～

小学校生活について紹介する「にじのかけ橋」は、リーフレット版(簡易)と電子版(詳細)を作成し、リーフレット版を市内の年長児に配布しています。どちらも幼研のホームページからダウンロードできます。ご活用ください。

### 保育・教育者の質の向上

- ・個の学び・育ちに気付くためには日々の生活での観察や子どもの理解が大事。
- ・子どもに楽しいことを「させる」ではなく、子ども達自ら夢中になって遊び込める環境作りが必要。
- ・子どもにとって幼保と小は生活の上でつながっているものであることを更に意識したい。



療育共同研修について

療育の質の向上と指導員のスキルアップを目指して取り組みました

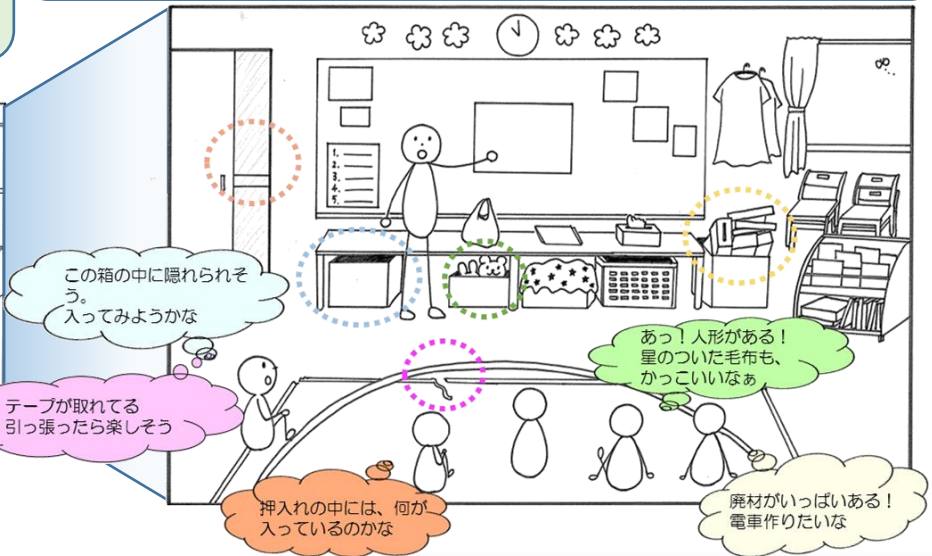
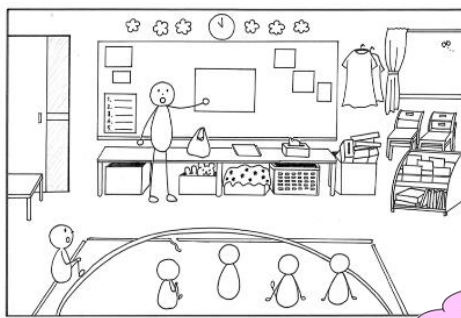
今年度は、「園での支援に活かすことができる療育活動や支援方法の追究～保育所等のニーズや困り感を捉えたいという療育活動を通して～」というテーマで、所内研修を行いました。

ここでは、子どもたちが気になること・ものを「刺激」と捉え、刺激を減らすための環境調整について、どのような工夫ができるかまとめました。今回はその一部をご紹介します。



ある教室でのお集まりの様子です  
子どもたちはどんな事が気になっているでしょう

○ ○ ○ ○ が気になっているかもしれません  
「他にもあるかも!？」子どもの立場になって考えてみましょう!



療育学級での工夫の例

どこを見るかわからない

必要なものだけを貼る



気になるものがたくさん

隙間を無くして高さを揃える



色が派手だと気になる

スッキリ!!

刺激を減らす(外せるものは外す)  
刺激を見えなくする(外せないものは隠す)

刺激を隠すときは、できるだけ落ち着いた色や統一感を持たせる



研修のまとめは、幼児教育研究所のホームページにも掲載しますので、是非ご覧ください。  
(3月中の掲載を目指しています)

